

礼拝メッセージフィードバック

<今日の聖書箇所は…>

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？

セル ガイド

- ① 祈り、賛美によって主がここにいてくださることを信じ、聖霊様があがめます。
- ② 互いの存在を感謝し、尊敬するところを分かち合しましょう。
- ③ ディポジションの分かち合いをします。
- ④ セルの目的と働きについてみなで共有して、祈り、遣わされて行きましょう。

家族礼拝ガイド

年長のクリスチャンがリードしてください。進め方にはいろいろな意見が出るかもしれませんが、「主に期待する」信仰が最も大切です。いつもの家族のでいいのです。

- ① この1週間で神様はすばらしいと感じたのはどんなこと？
- ② この1週間でお互いにどんなことを感謝しますか？（または誉めたいですか？）1つだけ。
- ③ 聖書のみことばから、どんな実践をして、またどんな恵みがありましたか？
- ④ 互いの必要のために祈りましょう。

デーヴォ ガイド



2021.1.4-1.10

But **grow** in the grace and knowledge of our Lord and Savior Jesus Christ. To him be glory both now and forever! Amen. II Peter 3:18

L T G ガイド

- ① お互いへの感謝と誉めることを分かち合しましょう。（2～3つ）
- ② 1週間の罪を言い表して悔い改め、互いに祈りましょう。
- ③ 礼拝メッセージの分かち合いをします。
礼拝メッセージの分かち合いが難しい場合はディポジションの分かち合い（なるべく短く）
- ④ 預言の祈り（主の御心を宣言して祈り）をします。

2:28 そこで、子どもたちよ。キリストのうちにとどまっていなさい。それは、キリストが現われるとき、私たちが信頼を持ち、その来臨のときに、御前で恥じ入るといふことのないためです。

2:29 もしあなたがたが、神は正しい方であると知っているなら、義を行なう者がみな神から生まれたこともわかるはずですよ。

3:1 私たちが神の子どもと呼ばれるために、・・・事実、いま私たちは神の子どもです。・・・御父はどんなにすばらしい愛を与えてくださったことでしょうか。世が私たちが知らないのは、御父を知らないからです。

3:2 愛する者たち。私たちは、今すでに神の子どもです。後の状態はまだ明らかにされていません。しかし、キリストが現われたなら、私たちはキリストに似た者となることがわかっていきます。なぜならそのとき、私たちはキリストのありのままの姿を見るからです。

3:3 キリストに対するこの望みをいだく者はみな、キリストが清くあらられるように、自分を清くします。

3:4 罪を犯している者はみな、不法を行なっているのです。罪とは律法に逆らうことなのです。

3:5 キリストが現われたのは罪を取り除くためであったことを、あなたがたは知っています。キリストには何の罪もありません。

3:6 だれでもキリストのうちにとどまる者は、罪のうちは歩みません。罪のうちは歩む者はだれも、キリストを見ていないし、知ってもいないのです。

3:7 子どもたちよ。だれにも惑わされてはい

けません。義を行なう者は、キリストが正しくあられるのと同じように正しいのです。

3:8 罪のうちは歩む者は、悪魔から出た者です。悪魔は初めから罪を犯しているからです。神の子が現われたのは、悪魔のしわざを打ちこわすためです。

3:9 だれでも神から生まれた者は、罪のうちは歩みません。なぜなら、神の種がその人のうちにとどまっているからです。その人は神から生まれたので、罪のうちは歩むことができないのです。

3:10 そのことによって、神の子どもと悪魔の子どもとの区別がはっきりします。義を行なわない者はだれも、神から出た者ではありません。兄弟を愛さない者もそうです

救われた者は、神によって生まれたのであって神の子どもです。救われる前と全く別の立場になったということです。神の子どもということは、天の神が父であり、この方から守っていただけるほどの愛されている存在です。またこの方の資産を受け継ぐことのできる身分でもあります。ですから神様のお心にかなう生き方をすることが喜びであり、また自己矛盾がない生き方ということになります。

悪魔はこれらのことについて反対を唱えますし、私たちの心に疑念を持つようにしむけます。しかし「惑わされ」ることなく、神の子としての生き方を選び取りましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満たしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主に抜おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？



5日 火曜

I ヨハネ



3:11 互いに愛し合うべきであるということは、あなたがたが初めから聞いている教えます。

3:12 カインのようであってははいけません。彼は悪い者から出た者で、兄弟を殺しました。なぜ兄弟を殺したのでしょうか。自分の行ないは悪く、兄弟の行ないは正しかったからです。

3:13 兄弟たち。世があなたがたを憎んでも、驚いてはいけません。

3:14 私たちは、自分が死からいのちに移ったことを知っています。それは、兄弟を愛しているからです。愛さない者は、死のうちにとどまっているのです。

3:15 兄弟を憎む者はみな、人殺しです。いうまでもなく、だれでも人を殺す者のうちに、永遠のいのちがとどまっていることはないのです。

3:16 キリストは、私たちのために、ご自分のいのちをお捨てになりました。それによって私たちに愛がわかったのです。ですから私たちは、兄弟のために、いのちを捨てるべきです。

3:17 世の富を持ちながら、兄弟が困っているのを見ても、あわれみの心を閉ざすような者に、どうして神の愛がとどまっているでしょう。

3:18 子どもたちよ。私たちは、ことばや口先だけで愛することをせず、行ないと真実をもって愛そうではありませんか。

3:19 それによって、私たちは、自分が真理に属するものであることを知り、そして、神の御前に心を安らかにされるのです。

3:20 たとい自分の心が責めてもです。なぜな

ら、神は私たちの心よりも大きく、そして何もかもご存じだからです。

3:21 愛する者たち。もし自分の心に責められなければ、大胆に神の御前に出ることができ、

3:22 また求めるものは何でも神からいただくことができます。なぜなら、私たちが神の命令を守り、神に喜ばれることを行っているからです。

3:23 神の命令とは、私たちが御子イエス・キリストの御名を信じ、キリストが命じられたとおりに、私たちが互いに愛し合うことです。

3:24 神の命令を守る者は神のうちにおり、神もまたその人のうちにおられます。神が私たちのうちにおられるということは、神が私たちに与えてくださった御霊によって知るのでした。

人を愛するというのは、クリスチャンにとって最高の課題であり、また誉れです。「ことばや口先だけで」ではなく、自分自身を捨てて愛することができるなら、それは本物です。

それは神様と自分自身との関係にも影響します。「自分が真理に属するもの」であることが分る、すなわち神の子であることを確認するためには、愛の行いをするのが一番なのです。

愛とは一方的なものです。見返りを求めないで愛してみましょう。そのような愛は人にも良い影響を与えますから、そのような家庭、教会、人生になっていきます。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？



➤ 6日 水曜

I ヨハネ

4:1 愛する者たち。霊だからといって、みな信じてはいけません。それらの霊が神からのものかどうかを、ためしなさい。なぜなら、にせ預言者がたくさん世に出て来たからです。

4:2 人となって来たイエス・キリストを告白する霊はみな、神からのものです。それによって神からの霊を知りなさい。

4:3 イエスを告白しない霊はどれ一つとして神から出たものではありません。それは反キリストの霊です。あなたがたはそれが来ることを聞いていたのですが、今それが世に来ているのです。

4:4 子どもたちよ。あなたがたは神から出た者です。そして彼らに勝ったのです。あなたがたのうちにおられる方が、この世のうちにいる、あの者よりも力があるからです。

4:5 彼らはこの世の者です。ですから、この世のことばを語り、この世もまた彼らの言うことに耳を傾けます。

4:6 私たちは神から出た者です。神を知っている者は、私たちの言うことに耳を傾け、神から出ている者は、私たちの言うことに耳を貸しません。私たちはこれで真理の霊と偽りの霊とを見分けます。

4:7 愛する者たち。私たちは、互いに愛し合いましょう。愛は神から出ているのです。愛のある者はみな神から生まれ、神を知っています。

4:8 愛のない者に、神はわかりません。なぜなら神は愛だからです。

4:9 神はそのひとり子を世に遣わし、その方によって私たちに、いのちを得させてくださいました。ここに、神の愛が私たちに示され



たのです。

4:10 私たちが神を愛したのではなく、神が私たちを愛し、私たちの罪のために、なだめの供え物としての御子を遣わされました。ここに愛があるのです。

4:11 愛する者たち。神がこれほどまでに私たちを愛してくださったのなら、私たちもまた互いに愛し合うべきです。

4:12 いまだかつて、だれも神を見た者はありません。もし私たちが互いに愛し合うなら、神は私たちのうちにおられ、神の愛が私たちのうちに全うされるのです。

霊的に敏感な人がいて、何かを感じるができる人がいます。そのような賜物が与えられているのかも知れませんが、それだけで満足することはできません。霊を見分けることが何より大切で、それができなければ結局サタンに影響されてしまいます。

「イエス・キリストを告白する」かどうかが決定的な見分け方です。クリスチャンが不思議なことをしたり、奇蹟を行う集会などもありますが、それもやはり見分ける必要があります。誰か人間がほめられていたり、誇っていたり、または権威になっていたら、それは警戒する必要があります。その指導者の心がイエス様から離れているかもしれません。

自分自身の言動もまたよく吟味してみましょう。イエス様を愛する思いから出ているでしょうか。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満たしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は抜おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？



7日 木曜

I ヨハネ



4:13 神は私たちに御霊を与えてくださいました。それによって、私たちが神のうちにおり、神も私たちのうちにおられることがわかります。

4:14 私たちは、御父が御子を世の救い主として遣わされたのを見て、今そのあかしをしています。

4:15 だれでも、イエスを神の御子と告白するのなら、神はその人のうちにおられ、その人も神のうちにあります。

4:16 私たちは、私たちに対する神の愛を知り、また信じています。神は愛です。愛のうちにいる者は神のうちにおり、神もその人のうちにおられます。

4:17 このことによって、愛が私たちにおいても完全なものとなりました。それは私たちが、さばきの日にも大胆さを持つことができるためです。なぜなら、私たちもこの世にあってキリストと同じような者であるからです。

4:18 愛には恐れがありません。全き愛は恐れを締め出します。なぜなら恐れには刑罰が伴っているからです。恐れる者の愛は、全きものとなっていないのです。

4:19 私たちは愛しています。神がまず私たちを愛してくださったからです。

4:20 神を愛すると言いながら兄弟を憎んでいるなら、その人は偽り者です。目に見える兄弟を愛していない者に、目に見えない神を愛することはできません。

4:21 神を愛する者は、兄弟をも愛すべきです。私たちはこの命令をキリストから受けています。

ている人は多いでしょう。または伝道してもなかなか神を感じてもらえないと、難しさを話題にすることもあります。

そんなときは「いまだかつて、だれも神を見た者はありません。もし私たちが互いに愛し合うなら…それによって、私たちが神のうちにおり、神も私たちのうちにおられることがわかります。」のみことばを思いだす必要があります。

口で「神様はいるよ」「イエス様を信じて」と言うだけでは、まだ不十分で、私たちクリスチャンが互いに愛し合うなら、世の人々は神の存在を心に留めるといいます。

兄弟姉妹を愛することは、自分の決心次第です。もっと愛の実践を行うことで、誰かの救いを近づけることができます。

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

伝道してもっと多くの人を救いに導きたいと思っ



➤ 8日 金曜

I ヨハネ

5:1 イエスがキリストであると信じる者はだれでも、神によって生まれたのです。生んでくださった方を愛する者はだれでも、その方によって生まれた者をも愛します。

5:2 私たちが神を愛してその命を守るなら、そのことによって、私たちが神の子どもたちを愛していることがわかります。

5:3 神を愛するとは、神の命令を守ることです。その命令は重荷とはなりません。

5:4 なぜなら、神によって生まれた者はみな、世に勝つからです。私たちの信仰、これこそ、世に打ち勝った勝利です。

5:5 世に勝つ者とはだれでしょう。イエスを神の御子と信じる者ではありませんか。

5:6 このイエス・キリストは、水と血とによって来られた方です。ただ水によってだけでなく、水と血とによって来られたのです。そして、あかしをする方は御霊です。御霊は真理だからです。

5:7 あかしするものが三つあります。

5:8 御霊と水と血です。この三つが一つとなるのです。

5:9 もし、私たちが人間のあかしを受け入れるなら、神のあかしはそれにまさるものです。御子についてあかしされたことが神のあかしだからです。

5:10 神の御子を信じる者は、このあかしを自分の心の中に持っています。神を信じない者は、神を偽り者とするのです。神が御子についてあかしされたことを信じないからです。

5:11 そのあかしとは、神が私たちに永遠のいのちを与えられたということ、そしてこのいのちが御子のうちにあるということです。



5:12 御子を持つ者はいのちを持っており、神の御子を持たない者はいのちを持っていません。

イエスをキリスト、すなわち救い主と信じる私たちは、「神によって生まれた」のです。またイエス様は死に打ち勝った勝利者であり、何よりも全能の神ですから、私たちもまた「世に勝つ」者です。

自分中心のまま成長していないクリスチャンは、救われただけで留まっていますが、神様を愛するクリスチャンは、他のクリスチャンをも愛します。相手の人もまたイエス様によって「生まれた者」だからです。

また神様を愛しますから、その愛する方の命令を喜んで守りたいと思います。

自分自身の中に、主に従いたい、人を愛するようになりたいという恩もいが与えられていることに気づきましょう。その思いを大切にしましょう。そしてそれを実践して、さらに神様のみわざを体験しましょう。それは想像以上に喜びが湧いてくる体験です。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？



5:13 私が神の御子の名を信じているあなたがたに対してこれらのことを書いたのは、あなたがたが永遠のいのちを持っていることを、あなたがたによくわからせるためです。

5:14 何事でも神のみこころにかなう願いをするなら、神はその願いを聞いてくださるということ、これこそ神に対する私たちの確信です。

5:15 私たちの願う事を神が聞いてくださると知れば、神に願ったその事は、すでになげられたと知るのです。

5:16 だれでも兄弟が死に至らない罪を犯しているのを見たなら、神に求めなさい。そうすれば神はその人のために、死に至らない罪を犯している人々に、いのちをお与えになります。死に至る罪があります。この罪については、願うようには言いません。

5:17 不正はみな罪ですが、死に至らない罪があります。

5:18 神によって生まれた者はだれも罪の中に生きないことを、私たちは知っています。神から生まれた方が彼を守ってくださるので、悪い者は彼に触れることができないのです。

5:19 私たちは神からの者であり、全世界は悪い者の支配下にあることを知っています。

5:20 しかし、神の御子が来て、真実な方を知る理解力を私たちに与えてくださったことを知っています。それで私たちは、真実な方のうちに、すなわち御子イエス・キリストのうちにいるのです。この方こそ、まことの神、永遠のいのちです。

5:21 子どもたちよ。偶像を警戒しなさい。

救われている実感が薄いなどという人もいるかもしれませんが。そういう人のためにも、ヨハネはこの手紙を書きました。救われている者はあらゆる点で、神から出ていない人とは違っているのです。

さらには祈りに答えていただけるという恵があります。救われている者は神様を愛していますから、「みこころにかなう願いをする」ことになりす。であるならば「神はその願いを聞いてくださる」のです。

自分では気づいていないかもしれませんが、私たちの願いは神様のみこころであることが多いのではないのでしょうか。もっと願ってみましょう。主の最善の時と主の最善の答えがあるはずす。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？



1:1 長老から、選ばれた夫人とその子どもたちへ。私はあなたがたをほんとうに愛しています。私だけでなく、真理を知っている人々がみな、そうです。

1:2 このことは、私たちのうちに宿る真理によることです。そして真理はいつまでも私たちとともにあります。

1:3 真理と愛のうちに、御父と御父の御子イエス・キリストから来る恵みとあわれみと平安は、私たちとともにあります。

1:4 あなたの子どもたちの中に、御父から私たちが受けた命令のとおり真理のうちを歩んでいる人たちがいるのを知って、私は非常に喜んでいました。

1:5 そこで夫人よ。お願いしたいことがあります。それは私が新しい命令を書くのではなく、初めから私たちが持っていたものなのですが、私たちが互いに愛し合うということです。

1:6 愛とは、御父の命令に従って歩むことであり、命令とは、あなたがたが初めから聞いているとおり、愛のうちを歩むことです。

1:7 なぜお願いするかと言えば、人を惑わす者、すなわち、イエス・キリストが人として来られたことを告白しない者が大ぜい世に出て行ったからです。こういう者は惑わす者であり、反キリストです。

1:8 よく気をつけて、私たちの労苦の実をだいなしにすることなく、豊かな報いを受けるようになりなさい。

1:9 だれでも行き過ぎをして、キリストの教えのうちにとどまらない者は、神を持っていません。その教えのうちにとどまっている者

は、御父をも御子をも持っています。

1:10 あなたがたのところに來る人で、この教えを持って來ない者は、家に受け入れてはいけません。その人にあいさつのことばをかけてもいけません。

1:11 そういう人にあいさつすれば、その悪い行ないをともしることになります。

1:12 あなたがたに書くべきことがたくさんありますが、紙と墨でしたくはありません。あなたがたのところに行って、顔を合わせて語りしたいと思います。私たちの喜びが全きものとなるためにです。

1:13 選ばれたあなたの姉妹の子どもたちが、あなたによろしくと言っています。

異端への警戒を促す内容です。そのためには互いに愛し合うことを勧めています。キリストに逆らう教えは、単に教理という頭やことばだけの問題ではなく、その生き方にも表れるのだということが分ります。

正しい信仰は行いにあるのですから、そのような行いをしましょう。また新しいクリスチャンに正しい信仰を身につけてもらいたいと願いますが、それもやはり、先輩クリスチャンの行いにあるということを銘記しましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？

